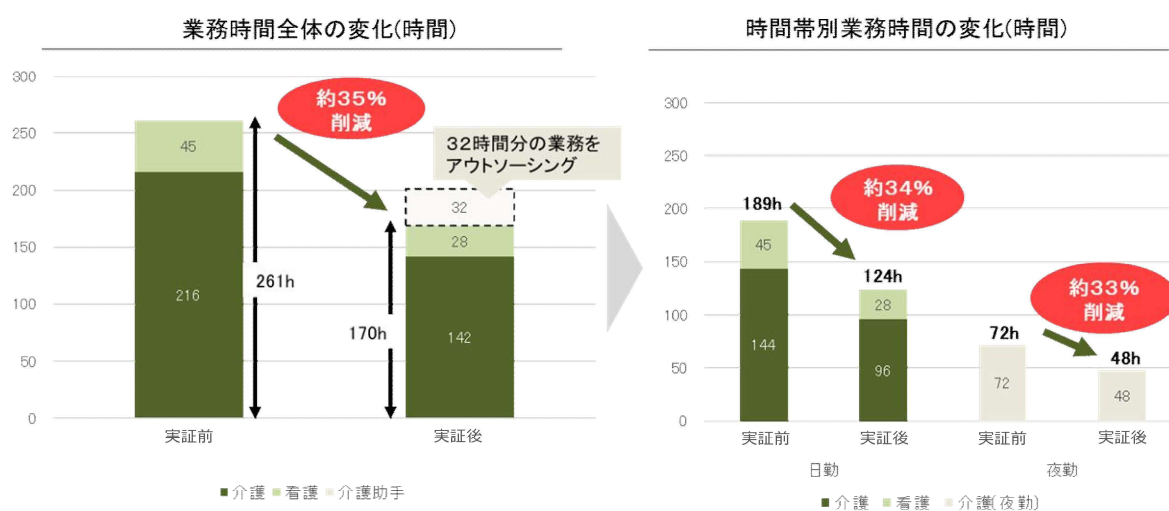


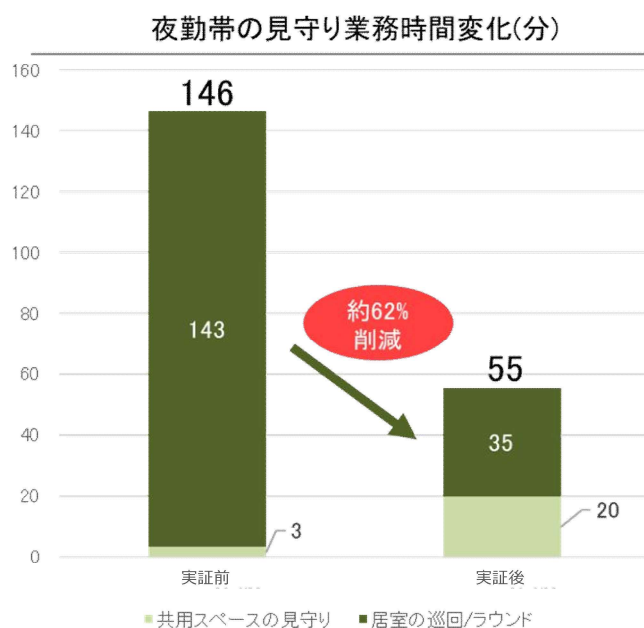
実証の成果

<図1> 業務時間全体の变化

- 作業観察（分析）の結果、業務時間全体（観察対象職員の2日間の合計）が約35%削減（左図）
- 時間帯別にみると、日勤帯では約34%削減、夜勤帯では約33%削減（右図）



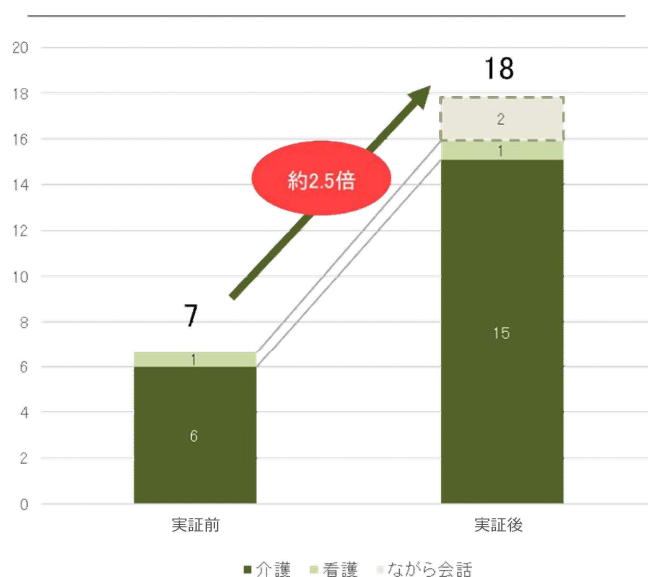
<図2> 夜勤帯の見守り業務時間の変化



- 見守り支援機器の導入により、夜勤帯(19:00～翌 7:00)の見守り業務時間を約62%削減。

※ 見守り支援機器を活用することで、利用者の安心・安全とプライバシーに配慮した見守りを常に行うことが可能。

＜図 3＞ 利用者との会話時間



- ・ 実証前、1日あたりの「利用者との会話」は7分であったが、実証後は18分に増加

＜図 4＞ 実証での導入機器



<図5> 北九州モデルの全体像

- ICT・介護ロボット等及び介護の周辺業務のアウトソーシングを活用し、介護現場の生産性を向上
- 生産性向上により生まれた時間で、職場環境の改善、利用者とのコミュニケーション増加などの介護の質向上を実現

